年間授業計画　新様式

高等学校 令和６年度（3学年用） 教科　　地歴公民科　　科目 歴史総合

教　科：　地歴公民科　　科　目：　歴史総合　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　A　組～　E　組

教科担当者：

使用教科書：（ 山川出版社『歴史総合　近代から現代へ』　　）

教科　地歴公民科　　の目標：

【知識及び技能】グローバル社会で自立することを目指し、現代社会の諸問題や世界の生活文化の多様性、各地域の歴史的つながり等を理解し、情報を適切に調べまとめる力を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】人間と自然環境との相互依存関係や、歴史的地域的特色などに着目し、現代社会を生きる自立した主体として多面的・多角的に考察する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な歴史や生活文化を尊重しようとすることの大切さに気付く。

科目　歴史総合　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。また、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	第１部　近代化と私たち 【知識・技能】 ヨーロッパで成立した主権国家体制と、15～16世紀にかけてのヨーロッパ人による航海と探検についてまとめさせる。 【思考・判断・表現】 宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきや、産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化について考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ヨーロッパの諸変化や、産業革命を単に技術革新としてとらえるのではなく、国内外にもたらしたさまざまな変化を注視させる。	・指導事項 ・教材 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・大航海時代以降の植民地の獲得によって、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解している。 【思考・判断・表現】 宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきについて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命による人々の生活の変化を追究しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	第１部　近代化と私たち 【知識・技能】 明治新政府が、諸外国と具体的にどのような関係を築こうとしたかをまとめさせる。 【思考・判断・表現】 四民平等の原則により、同じ義務をもつ国民が形成され、徴兵や租税の徴収がどのようにして実施されたのかや、日本が導入した欧米からの新技術について具体的に考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 新政府の方針をとらえるとともに、諸藩がどのように対応したかを、新政府側、諸藩側の立場にたって探究させる。	・指導事項 ・教材 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。 【思考・判断・表現】 四民平等の原則により、同じ義務をもつ国民が形成され、徴兵や租税の徴収がどのようにして実施されたのか考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 新政府の方針をとらえるとともに、諸藩がどのように対応したかを、新政府側、諸藩側の立場にたって探究しようとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
2学期	第２部　国際秩序の変化や大衆化と私たち 【知識・技能】 第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解させる。 【思考・判断・表現】 各国が国際協調路線をとった背景を考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際連盟と国際協調路線のなかで結ばれた条約について、その成果と限界を追究させる。	・指導事項 ・教材 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解している。 【思考・判断・表現】 バルカン半島の地理的・民族的・宗教的な複雑さをもとに、バルカン諸国の対立が第一次世界大戦の開戦に影響をあたえたことを多面的・多角的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際連盟と国際協調路線のなかで結ばれた条約について、その成果と限界を追究しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第２部　国際秩序の変化や大衆化と私たち 【知識・技能】 世界恐慌の発生の原因・過程・結果について理解させる。第二次世界大戦のおこった背景を理解させる。 【思考・判断・表現】 世界恐慌に対して、各国の対応策を比較し、表現させる。・日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界恐慌は、国際秩序にどのような変化をもたらしたか、資本主義国・社会主義国の視点から多面的・多角的に追究させる。第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその構矢について追究させる。	・指導事項 ・教材 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 世界恐慌の発生の原因・過程・結果について理解している。第二次世界大戦のおこった背景を理解している。 【思考・判断・表現】 世界恐慌に対して、各国の対応策を比較し、表現している。・日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界恐慌は、国際秩序にどのような変化をもたらしたか、資本主義国・社会主義国の視点から多面的・多角的に追究している。第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその嚆矢について追究している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3学期	第３部　グローバル化と私たち 【知識・技能】 西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解させる。西ヨーロッパの地域統合における歩みを理解させる。 【思考・判断・表現】 ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察させる。経済統合のメリットとデメリットを比較しながら、地域統合がヨーロッパ経済の発展につながったことを考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 東西分裂期のドイツにおけるベルリンのあり方と「ベルリンの壁」が東西冷戦の象徴とされた意味を追究させる。ECとEFTAを、それぞれ今日のEUとEFTAと比較することで、地域統合の歴史的意義を追究させる。	・指導事項 ・教材 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。西ヨーロッパの地域統合における歩みを理解している。 【思考・判断・表現】 ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。経済統合のメリットとデメリットを比較しながら、地域統合がヨーロッパ経済の発展につながったことを考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東西分裂期のドイツにおけるベルリンのあり方と「ベルリンの壁」が東西冷戦の象徴とされた意味を追究している。ECとEFTAを、それぞれ今日のEUとEFTAと比較することで、地域統合の歴史的意義を追究している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計 70